

読書の秋に 物語を生きる

校長 Sr.大山 江理子

緊急事態宣言が解除となりました。夏休み明けには非常な緊張をもって学校生活を始めましたが、無事に9月を終え、前期の終了に向かっていきます。時差・分散登校とし、授業時数も制限していただきましたので、子どもたちには思う存分の活動でなかったところもあるかもしれませんが、学校でみなと共に学ぶ楽しさと深さを味わった日々となりました。保護者の皆さまのご理解とご協力に感謝いたします。後期からまた新たな気持ちで、取り組んでいきたいと考えています。引き続き感染対策に意識を高くし、健康で過ごしてまいります。



秋と言えば・・・、読書です。9月の朝礼で物語について子どもたちと考えました。様々な物語があります。楽しい物語、おもしろい物語、悲しい物語など、多様な物語を読み、味わうことは大きな楽しみです。物語の世界の中では、現実生活から離れて色々な体験をすることができ、生きる目的や意味についても学ぶことができます。物語は作者が創造するものですが、逆に、私たちの生活や人生も物語になぞらえることができるでしょう。確かに、不思議なことに、読み終わった物語はそこで終了してしまうのではなく、私たちの心の中に残っていきます。物語の中で深く感動したり、納得したりしたことが記憶に残り、「私」の物語に付け加わり、私の物語の一部となっていきます。色々な物語を読むにつれ、私たちの中にある物語も豊かに、深みをもったものになっていきます。そして、私の中の物語が私を導いてくれるということもあるようです。そこで、日頃どのような物語に接しているか、心の中にもどのような物語をもっているかということも重要になります。

聖心で大切にしている物語は、聖マグダレナ・ソフィアとイエス・キリストの物語です。学校で皆でこの2つの物語を大切にしています。どちらも神様の愛を信じ、共に生きる関わりを大切に作る物語です。そして、関わりを世界に広げる物語です。

物語には、始めがあって、出来事があり、クライマックスがあって、終わりがあります。子どもたちの日々の生活も、物語の視点をもって見てあげるなら、途中で妨げたりせず、子ども本人が自分なりの終わりの感覚を味わうまで見届けることが大事になりそうです。どのようなものであっても、自分で到達した結末は納得がいくものです。終わりを自分のものとして受け取り、味わうことで、子どもは物語を自分のものとして位置づけます。そして、子どもたちは自分の物語を豊かなものとし、次の

歩に踏み出す力をつけていきます。

保護者の皆さまはどのような物語を心の中にもっていらっしゃるでしょうか。ものの見方、人生に対する見方の端々に、その人のもっている物語が現れるようです。

学校の物語がイエスと聖マグダレナ・ソフィアの物語に深く根ざしたものとなるようお願いしつつ、後期も進めてまいります。



©児島なおみ

自分の力を惜しみなく使うこと

教頭 吉岡真左美

先日、港区の社会福祉協議会からお手紙をいただきました。開封すると中にはスケッチブックが入っていて、とても素敵な絵が何枚も描かれていました。思わず感嘆の声を上げるほど、素晴らしい絵でした。6月のみこころの祝日の奉仕活動として、港区のご高齢の方に向けて児童が絵手紙を描いたのですが、お受け取りになって喜んでくださった方が、スケッチブックに絵をお描きになってお送りくださったものでした。



港区の方がお送りくださった絵



奉仕活動として初等科生が描いた
絵手紙

6月の奉仕活動では、児童会のリーダーシップのもと全校児童が手分けをして、ハイチデーで縁のあるフィリピンとインドネシアの子どもたちや、原発事故の被害に遭われた南相馬市の方々にも絵手紙をお送りしました。お受け取りくださるだけでなく写真やメッセージを初等科へ送ってくださり、港区の方からいただいたスケッチブックと合わせて、児童会がテレビ朝礼で初等科生に紹介しました。

このようにして交流できることはとても有難く、児童にとって活動の励みにもなっています。聖心の教育で大切にしている『自分の力を惜しみなく使う』1つの機会として奉仕活動を行っていますが、これからも児童と共に考えて取り組んでいきたいと思えます。

セカンドステージでは、社会で活躍する先輩の話をお聴きする機会がありました。JICAで働く増田京美さんにとって、国際協力の世界に関心を持ったはじめの一步は、初等科でのハイチデーだったそうです。そして、初・中・高・大と聖心で16年間学ぶ中で、世界に関心を持ったり自分には何ができるかを考えたりする機会が日常的にあり、その積み重ねが現在の自分につながっていると語りました。増田さんの話を聴いて、同じように国際協力に関心を持ったり、自分にできることを見つけて他者に尽くしたいと刺激を受けたセカンドステージ生もいたと思いますし、私自身初等科教員として、そのような積み重ねを大事にしていきたいと改めて感じました。



フィリピンからいただいたメッセージ

増田さんや国連難民高等弁務官を務められた緒方貞子さんのように、実際に世界の方々と交渉しながら自分の力を惜しみなく使って他者に尽くすケースもあれば、自分の身近な人をさりげなく思いやる行動が自他の喜びにつながるケースもあり、立場や成長の段階によって人それぞれのアクションが考えられます。思ったようにいかないこともあるかもしれませんが、『自分の力を惜しみなく使う』ことはイエス様の姿であり、マザーバラや多くのシスター方が私たちに伝えてくださった大切なこととして、受け継いでいきます。



セカンドステージ 増田さんの講演

10月の予定

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1日(金) 都民の日 | 11日(月) 後期始業式 身体測定 3・4限授業
防災引き取り訓練(1年生) |
| 4日(月) 1年・転入・編入生保護者会
面接日 | 14日(木) 1st English Day(4限) |
| 7日(木) 前期終業式 | 18日(月) 児童会立ち会い演説会(4限)
6年保護者会(15:30~) |
| 8日(金) 秋休み | 19日(火) 1st 感ずべき御母の祝日行事 |
| 8日(金) ~9日(土)
みこころ祭(初等科生の参加はなし) | 20日(水) 2nd 感ずべき御母の祝日行事 |
| | 29日(金) 3限まで授業 入試準備 |